

(4面からつづく)
(4面からつづく)
必要な商品が
うな柔軟で多様な商品が
必要だ。日本生命では昨
年から商品保障機能(こ
とにばらばらにして、必
要な時に必要な機能を組
み合わせて加入できるよ
うにした。
三つ目は、生保会社自
体の健全性だ。見えない
商品を提供しているわれ
われにとつては、信用が
い。

すべてだ。どんな災害や
危機が来ても、きちんと
保険金をお支払いでき
る、盤石の体制を構築し
ていかななくてはならな
い。
さまたちが掛かっ
てきたコストは掛からない
が、年数がたつて顧客が
高くなるにつれて、さま
ざまなコストが掛かっ
てくる。従って、リスクを

保険は、顧客が若いう
ちにはコストは掛からない
減して将来のコストアッ
プに備えることも必要
だ。当たり前のことを地
道にきちんとやれば、保
険会社は信用を得られ続
けるだろう。商品開発担
当者は、将来にわたって
信用を維持できるかとい
う視点をしっかり持つ必
要がある。

この高年齢社会、
日本が、100歳まで生
きるのが当たり前になっ
ても安心して生きられる
社会システムを構築でき
れば、それは輝かしい人
類の財産になり、日本に
ついていかなければならな
い。
最後に、スベ
イのことがわが「雪の多
い年は実りの多い年とな
る」というものがある。
「風が吹けば桶屋がもう
かる」の経路が成立する
ならば、「風を吹かせて
桶屋でもうける」という
考えだ。
この事例として、タイ
ヤメーカーのミシュラン
が発行するガイドブック
がある。自動車旅行のラ
イフスタイルがなかった
時代に自動車を使った新
たなライフスタイルを方
イドブックを発行するこ
とで提案し、自動車の販
売拡大、タイヤの売上増
加につなげた。

損保各社は、国内市場
は成熟市場との認識も
とに、事業規模拡大戦略
を取ってきた。ここで、
国内損保事業にはまだ可
能性が残っているという
視点から私見を述べた
い。すなわち、ポストン
・コンサルティングが開
発したプロダクト・ポー
ト(PPM)の四つの項
目に当てはめると、国内
損保事業を「金のなる
木」から「スター」にす
ることはできないかとい
うことだ。
そのためには、技術革
新ではなく、パラダイム
を変えるイノベーション
が必要となる。パラダイ
ムの変革に当たっては、
リスクに対処する保険を
超えて、新たなライフス
タイルを提案することで
マーケットを創出する。
「風が吹けば桶屋がもう
かる」の経路が成立する
ならば、「風を吹かせて
桶屋でもうける」という
考えだ。
この事例として、タイ
ヤメーカーのミシュラン
が発行するガイドブック
がある。自動車旅行のラ
イフスタイルがなかった
時代に自動車を使った新
たなライフスタイルを方
イドブックを発行するこ
とで提案し、自動車の販
売拡大、タイヤの売上増
加につなげた。

聞いている。今年の冬は
厳しいが、日本にとつ
て、政治的にも経済的に
も社会的にも実りの多い
年になってほしいと願っ
ている。

類の財産になり、日本に
ついていかなければならな
い。
最後に、スベ
イのことがわが「雪の多
い年は実りの多い年とな
る」というものがある。
「風が吹けば桶屋がもう
かる」の経路が成立する
ならば、「風を吹かせて
桶屋でもうける」という
考えだ。
この事例として、タイ
ヤメーカーのミシュラン
が発行するガイドブック
がある。自動車旅行のラ
イフスタイルがなかった
時代に自動車を使った新
たなライフスタイルを方
イドブックを発行するこ
とで提案し、自動車の販
売拡大、タイヤの売上増
加につなげた。

聞いている。今年の冬は
厳しいが、日本にとつ
て、政治的にも経済的に
も社会的にも実りの多い
年になってほしいと願っ
ている。

類の財産になり、日本に
ついていかなければならな
い。
最後に、スベ
イのことがわが「雪の多
い年は実りの多い年とな
る」というものがある。
「風が吹けば桶屋がもう
かる」の経路が成立する
ならば、「風を吹かせて
桶屋でもうける」という
考えだ。
この事例として、タイ
ヤメーカーのミシュラン
が発行するガイドブック
がある。自動車旅行のラ
イフスタイルがなかった
時代に自動車を使った新
たなライフスタイルを方
イドブックを発行するこ
とで提案し、自動車の販
売拡大、タイヤの売上増
加につなげた。

聞いている。今年の冬は
厳しいが、日本にとつ
て、政治的にも経済的に
も社会的にも実りの多い
年になってほしいと願っ
ている。

「安全から安心、そして楽しさへ」安心の、さらには楽しいライフスタイルの提案」

損保事業の発祥

損害保険には長い歴史がある。海上保険の前身は地中海貿易の「冒険貸借」だといわれている。これは融資と保険が一体となり、1航海1プロジェクトの形で資金を調達し、かつ、保険の役割を果たす仕組みだ。その後、利息を禁止する時代を経て、保険の機能が重視されるようになり、14世紀に海上保険制度が形成された。まさに、経済活動とリンクして誕生したといえる。

損保ジャパン総合研究所

百瀬剛社長

一方、火災保険誕生のきっかけとなったのは17世紀のロンドン大火。4日間延焼し、市の約8割が焼失、被災者は約10万人に及んだ。この大火から復興途上で海上保険を応用して確立された火災保険は、ロンドン市街の再建に役割を果たし、「海上保険が陸に上がった」と表現されたこともある。

日本に保険の考え方を紹介したのは福沢諭吉で、『西洋旅案内』では、「災難請合の事ーインシユアランス」として、「組合を組織し、平無事の時に人から金を取り、万一、その人への災難あれば、組合より大金を出して、その損じを救う仕法なり」と説明している。

リスク移動の事故を契機に金銭の余っている人から余っていない人への金融、または保険会社が集めた保険料を使った金融③社会保障のような再分配機能がある。

その効果としては、効率的な資源配分による社会コスト全体の低減、不確実性の減少、保険を付けることによる信用度向上、資本形成、保険会社のモニタリング機能による災害防止などが挙げられる。

96年と98年の自由化は、保険業界の大きな曲がり角の一つと位置付けられる。96年の保険業法改正では、子会社方式による生損保の相互参入やダイレクト販売などが認められるようになった。98年には保険料率が自由化され、保険業界の競争が本格化した。

90年代が保険業界の転換期だったことを別の角度から見ると、収入保険料は2000年代に入っ

ても伸びている一方、収益性については、1990年代後半をピークに下降しており、自由化による影響が出てきていることが分かる。また、総資産は順調に増えているものの、運用収益は低金利時代突入に伴って減少してきている。

現在の損保事業
保険事業は高度経済成長、規制強化、自由化などの時代を経て、現在、縮小、停滞傾向にある。こうした状況を踏まえ、損保各社は再編・統合を進めてきた。最近10年の業界再編は劇的なもので、市場規模の拡大を見込むことができない中、損保各社は規模の経済を追求することにまい進した。その効果は、事業費の圧縮に明確に表れている。

自由化の前後で損保各社の戦略が異なってきたように思われる一方、環境の変化にかかわらず、損保各社は一貫して事業規模拡大戦略を取ってきた。この見方もできる。これまで見てきた再編・統合や海外事業、関連サービス事業の展開など新しい成長分野への進出だ。

生保分野参入については、既に構築された損保チャネルで生保商品を提案する重ね売りを推進。第三分野や収入保障商品

この高年齢社会、日本が、100歳まで生きるのが当たり前になっても安心して生きられる社会システムを構築できれば、それは輝かしい人類の財産になり、日本についていかなければならない。最後に、スベイのことがわが「雪の多い年は実りの多い年となる」というものがある。「風が吹けば桶屋がもうかる」の経路が成立するならば、「風を吹かせて桶屋でもうける」という考えだ。この事例として、タイヤメーカーのミシュランが発行するガイドブックがある。自動車旅行のライフスタイルがなかった時代に自動車を使った新たなライフスタイルをガイドブックを発行することで提案し、自動車の販売拡大、タイヤの売上増加につなげた。

聞いている。今年の冬は厳しいが、日本にとつて、政治的にも経済的にも社会的にも実りの多い年になってほしいと願っている。

類の財産になり、日本についていかなければならない。最後に、スベイのことがわが「雪の多い年は実りの多い年となる」というものがある。「風が吹けば桶屋がもうかる」の経路が成立するならば、「風を吹かせて桶屋でもうける」という考えだ。この事例として、タイヤメーカーのミシュランが発行するガイドブックがある。自動車旅行のライフスタイルがなかった時代に自動車を使った新たなライフスタイルをガイドブックを発行することで提案し、自動車の販売拡大、タイヤの売上増加につなげた。

聞いている。今年の冬は厳しいが、日本にとつて、政治的にも経済的にも社会的にも実りの多い年になってほしいと願っている。

類の財産になり、日本についていかなければならない。最後に、スベイのことがわが「雪の多い年は実りの多い年となる」というものがある。「風が吹けば桶屋がもうかる」の経路が成立するならば、「風を吹かせて桶屋でもうける」という考えだ。この事例として、タイヤメーカーのミシュランが発行するガイドブックがある。自動車旅行のライフスタイルがなかった時代に自動車を使った新たなライフスタイルをガイドブックを発行することで提案し、自動車の販売拡大、タイヤの売上増加につなげた。

聞いている。今年の冬は厳しいが、日本にとつて、政治的にも経済的にも社会的にも実りの多い年になってほしいと願っている。

類の財産になり、日本についていかなければならない。最後に、スベイのことがわが「雪の多い年は実りの多い年となる」というものがある。「風が吹けば桶屋がもうかる」の経路が成立するならば、「風を吹かせて桶屋でもうける」という考えだ。この事例として、タイヤメーカーのミシュランが発行するガイドブックがある。自動車旅行のライフスタイルがなかった時代に自動車を使った新たなライフスタイルをガイドブックを発行することで提案し、自動車の販売拡大、タイヤの売上増加につなげた。

聞いている。今年の冬は厳しいが、日本にとつて、政治的にも経済的にも社会的にも実りの多い年になってほしいと願っている。

類の財産になり、日本についていかなければならない。最後に、スベイのことがわが「雪の多い年は実りの多い年となる」というものがある。「風が吹けば桶屋がもうかる」の経路が成立するならば、「風を吹かせて桶屋でもうける」という考えだ。この事例として、タイヤメーカーのミシュランが発行するガイドブックがある。自動車旅行のライフスタイルがなかった時代に自動車を使った新たなライフスタイルをガイドブックを発行することで提案し、自動車の販売拡大、タイヤの売上増加につなげた。

聞いている。今年の冬は厳しいが、日本にとつて、政治的にも経済的にも社会的にも実りの多い年になってほしいと願っている。

類の財産になり、日本についていかなければならない。最後に、スベイのことがわが「雪の多い年は実りの多い年となる」というものがある。「風が吹けば桶屋がもうかる」の経路が成立するならば、「風を吹かせて桶屋でもうける」という考えだ。この事例として、タイヤメーカーのミシュランが発行するガイドブックがある。自動車旅行のライフスタイルがなかった時代に自動車を使った新たなライフスタイルをガイドブックを発行することで提案し、自動車の販売拡大、タイヤの売上増加につなげた。



百瀬社長

損保各社は、国内市場は成熟市場との認識もとに、事業規模拡大戦略を取ってきた。ここで、国内損保事業にはまだ可能性が残っているという視点から私見を述べたい。すなわち、ポストン・コンサルティングが開発したプロダクト・ポート(PPM)の四つの項目に当てはめると、国内損保事業を「金のなる木」から「スター」にすることはできないかということだ。そのためには、技術革新ではなく、パラダイムを変えるイノベーションが必要となる。パラダイムの変革に当たっては、リスクに対処する保険を超えて、新たなライフスタイルを提案することでマーケットを創出する。「風が吹けば桶屋がもうかる」の経路が成立するならば、「風を吹かせて桶屋でもうける」という考えだ。この事例として、タイヤメーカーのミシュランが発行するガイドブックがある。自動車旅行のライフスタイルがなかった時代に自動車を使った新たなライフスタイルをガイドブックを発行することで提案し、自動車の販売拡大、タイヤの売上増加につなげた。

聞いている。今年の冬は厳しいが、日本にとつて、政治的にも経済的にも社会的にも実りの多い年になってほしいと願っている。

類の財産になり、日本についていかなければならない。最後に、スベイのことがわが「雪の多い年は実りの多い年となる」というものがある。「風が吹けば桶屋がもうかる」の経路が成立するならば、「風を吹かせて桶屋でもうける」という考えだ。この事例として、タイヤメーカーのミシュランが発行するガイドブックがある。自動車旅行のライフスタイルがなかった時代に自動車を使った新たなライフスタイルをガイドブックを発行することで提案し、自動車の販売拡大、タイヤの売上増加につなげた。

聞いている。今年の冬は厳しいが、日本にとつて、政治的にも経済的にも社会的にも実りの多い年になってほしいと願っている。

類の財産になり、日本についていかなければならない。最後に、スベイのことがわが「雪の多い年は実りの多い年となる」というものがある。「風が吹けば桶屋がもうかる」の経路が成立するならば、「風を吹かせて桶屋でもうける」という考えだ。この事例として、タイヤメーカーのミシュランが発行するガイドブックがある。自動車旅行のライフスタイルがなかった時代に自動車を使った新たなライフスタイルをガイドブックを発行することで提案し、自動車の販売拡大、タイヤの売上増加につなげた。

聞いている。今年の冬は厳しいが、日本にとつて、政治的にも経済的にも社会的にも実りの多い年になってほしいと願っている。

類の財産になり、日本についていかなければならない。最後に、スベイのことがわが「雪の多い年は実りの多い年となる」というものがある。「風が吹けば桶屋がもうかる」の経路が成立するならば、「風を吹かせて桶屋でもうける」という考えだ。この事例として、タイヤメーカーのミシュランが発行するガイドブックがある。自動車旅行のライフスタイルがなかった時代に自動車を使った新たなライフスタイルをガイドブックを発行することで提案し、自動車の販売拡大、タイヤの売上増加につなげた。

聞いている。今年の冬は厳しいが、日本にとつて、政治的にも経済的にも社会的にも実りの多い年になってほしいと願っている。

類の財産になり、日本についていかなければならない。最後に、スベイのことがわが「雪の多い年は実りの多い年となる」というものがある。「風が吹けば桶屋がもうかる」の経路が成立するならば、「風を吹かせて桶屋でもうける」という考えだ。この事例として、タイヤメーカーのミシュランが発行するガイドブックがある。自動車旅行のライフスタイルがなかった時代に自動車を使った新たなライフスタイルをガイドブックを発行することで提案し、自動車の販売拡大、タイヤの売上増加につなげた。